

連載

自立生活ははじめました
～ひとりでこそ感じていること～

山本 智章

早いもので自立生活を始めてもうすぐ1年半が経ちます。初めてのことばかりで緊張する日々を送っています。落ち着かないものの「なんとか」生活しています。いろんなことで気持ちが折れそうになります。まだまだ、これからですが、良かったこと、困ったことを書いていこうと思います。

困ったこと

ある日、最寄り駅の市営地下鉄を利用して外出した時の話です。いつものように電車を利用して外出しました。改札を通りエレベーターでホームに向かいました。降車駅は板宿駅です。そこからさらに山陽電車に乗り換えて目的地に向かいました。全く問題がなく目的地に着きました。

問題があったのは帰りです。帰りの板宿駅からスロープの介助を駅員にお願いしたところ「西神南駅のエレベーターが故障していて使用できない」と駅員から言われました。「えっ、本当に。来る時は動いていたのに。」と耳を疑いました。とりあえず板宿駅で留まり、どのような手段で帰るか悩みました。というのも西神南駅にはエレベーターが1つしか設置されていません。だから、駅に着いても地上に上がることができないのです。駅員に階段を運んでもらうにしても人手が少なく、本人と電動車椅子を運ぶリスクを考えると厳しいようでした。板宿駅にタクシーを呼ぶか、またどこかのタクシーがいいのか悩みました。

結局、最寄り駅の1つ先の駅に降りて親に迎えに来てもらうことにしました。実家が近くにあり、親が元気で居てくれたお陰で無事に帰ることができました。後日、エレベーターの修理が終わったのが深夜2時くらいだったと駅員から聞きました。あのまま待っていたら家に帰ることができず野宿するところでした。

今回のような緊急事態が起こればヘルパーさんの交代や時間の調整が難しいです。もし親が居ないことを考えると恐ろしくなりました。緊急に

対応してくれる介護タクシーの利用が必要になると思いました。駅には階段を昇ることができる“段差解消機”等の緊急事態への備えがあればいいのにと思いました。

良かったこと

改めて考えると今住んでいる場所がとても便利な環境だと思います。それは、最寄り駅が近くにあり、スーパーやホームセンターもあります。医療機関にも電車で5分もあれば通うことができます。生活を送る中で日用品や生活必需品などを揃えやすいです。近くにコンビニもありますので、外出帰りに寄ることができます。

そういえば外にできれば車椅子ユーザーを見かける機会が多くあります。この地域は障がいを持たれた方が多く住んでいるようで、私は駅やスーパーでエレベーターを譲って頂いたことがあり、地域の人が優しく接しているような気がします。その他にも公園で小学生に挨拶をされたことがありました。私を見て小学生の口から「電動車椅子やん」と気軽に言われたことがありました。あまり物珍しく見る様子もなかったです。やはり見慣れているのかなと思いました。私たち重度障がい者がもっと外へ出掛けて存在をアピールすれば地域で生活していることを当たり前のように感じてもらえるはずです。

最後に私事ですが行政との交渉に苦戦しております。なかなか役所の人に私たちの生活を理解してもらえていないようです。まだまだ納得できる生活ではありません。これからも現状を変えていきたいです。もっと自分らしく生きる為に行政へ伝えていきたいです。それには、自分自身がどう過ごしたいかをもう一度見つめ直す必要があると思います。今も夜中は全く一人で仰向けのまま朝まで過ごしています。不安があり寝不足の日々が続いています。こういったことを理解してもらい、変えていきたいと思っています。